

たからざか



令和5年
1月発行
No.75

良質で高度な医療を提供し
住民に愛される病院を目指します。

大牟田市宝坂町2丁目19番地1
TEL 0944-53-1061

HP <https://www.ghp.omuta.fukuoka.jp/>



外来紹介



当院は、一般診療科の他に小児科特別専門外来、補聴器外来、尿路管理外来、ストーマ外来など、専門の医師や看護師を中心に多職種で特別外来を行っています。

また、ご紹介患者さんに関しては、近隣病院・診療所の協力のもと受診予約制を導入し、他科や他部署との連携を強化しながら待ち時間の短縮に努めています。

また、“地域とつながる外来看護 ～これまでの暮らしを続けられるために～”をスローガンに、患者さんが住み慣れた療養環境で、安心・安全・安楽な生活が継続できるよう患者総合支援部と連携し、支援に努めています。

今回は、1階にあります4ブロック・5ブロック・6ブロック及び4階にあります7ブロックについてご紹介いたします。



6ブロック

皮膚科

皮膚科一般をはじめ、難治な皮膚疾患の診断と治療を診療の中心としております。一般病院、開業医の先生方が治療に難渋された重症例、非典型例に積極的に対応しております。

形成外科

外傷や熱傷、傷跡の醜形および引きつれ、瘢痕、ケロイド、皮膚・皮下腫瘍（良性）、軟部腫瘍（良性）、眼瞼下垂、先天異常などに対する外科的治療を行っております。

精神科

非常勤医のみの診療体制となっているため、初診受付は行っておりません。

5ブロック

泌尿器科

地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たすために悪性疾患を中心に手術・化学療法・放射線治療等を久留米大学病院と連携をとりながら行っております。また、救急疾患である急性尿路感染症に対しても、積極的に緊急処置・加療を行っております。

眼科

眼科一般を中心に、カカリつけ医の先生方や久留米大学病院と連携をとりながら、手術や注射などの治療を行っております。

4ブロック

小児科

一般外来・乳幼児健診・予防接種と久留米大学小児科の協力で各専門外来を行っております。詳しくはホームページをご参照下さい。

耳鼻咽喉科

耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頸部について診療を行っております。頭頸部悪性腫瘍に対する治療は、久留米大学病院と連携をとりながら、当院で可能な手術、化学療法・放射線治療を行っております。

7ブロック(4階)

外科

がんを代表とする悪性疾患をはじめ、日常生活に障害を有する良性疾患に対しても治療を行っております。定例手術のみでなく昼夜の緊急手術にも対応しております。

血管外科

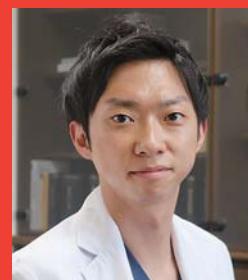
腹部大動脈瘤、腸骨動脈瘤をはじめ、大動脈疾患は生命に直結する疾患であり、当科でもガイドラインに沿って積極的に手術加療を施行しております。

麻酔科

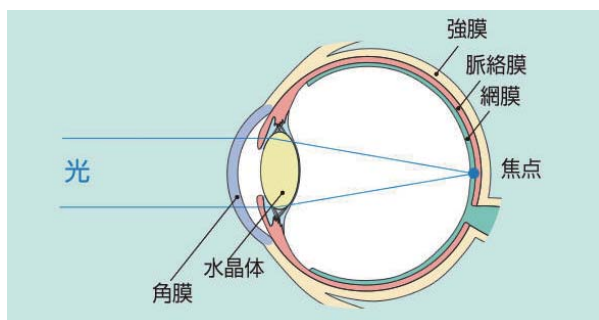
手術麻酔・ペインクリニックおよび救急医療を担います。大牟田周辺地区の中核病院として24時間体制で緊急手術に対応しております。



網膜のむくみ (黄斑浮腫) と 眼の注射



眼科 にし ずみ 西住 とし き 俊輝



光は黒目(角膜)、レンズ(水晶体)、眼球内を満たすゼリー(硝子体)を経て、視細胞が集まるフィルム(網膜)へと届きます。

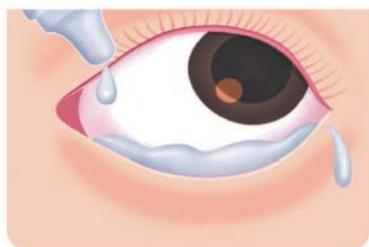
光の信号は、網膜から視神経を通して脳へと伝わり、私たちは“見える”のです。

皆さんに馴染みがある眼の病気は、水晶体が濁る白内障、眼圧が上がることで視神経が傷む緑内障ではないでしょうか。

今回は網膜の中心(黄斑)のむくみ(浮腫)と、その治療である注射治療(硝子体注射)のお話です。

硝子体注射を一言で表すと“眼球に行く注射”です。

想像すると恐ろしいかもしれませんが、麻酔の目薬をして約 0.3mm の非常に細い針を使い数秒で終わるので、注射をされたことに気が付かない患者さんも多いです。



点眼消毒・麻酔

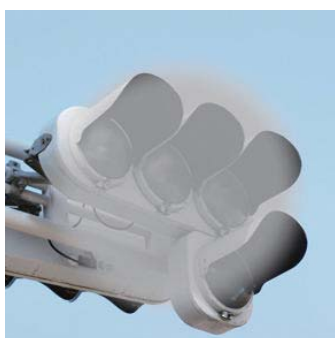


注射

注射を行う病気はいくつかありますが、どの病気にも共通するのが“黄斑がむくむ”ということです。

黄斑には物を見るための視細胞が密集しているため、小さなむくみでも視力低下や歪み、視野の欠けなどが起こります。

注射薬はいくつか種類がありますが、むくみの原因物質(血管内皮増殖因子)を抑え、症状を改善させる効果があります。



※黄斑浮腫での見え方：かすむ、見えなくなる、ゆがむなどの症状が視界の中央で生じます。

ここで、むくみの原因となる病気について説明します。

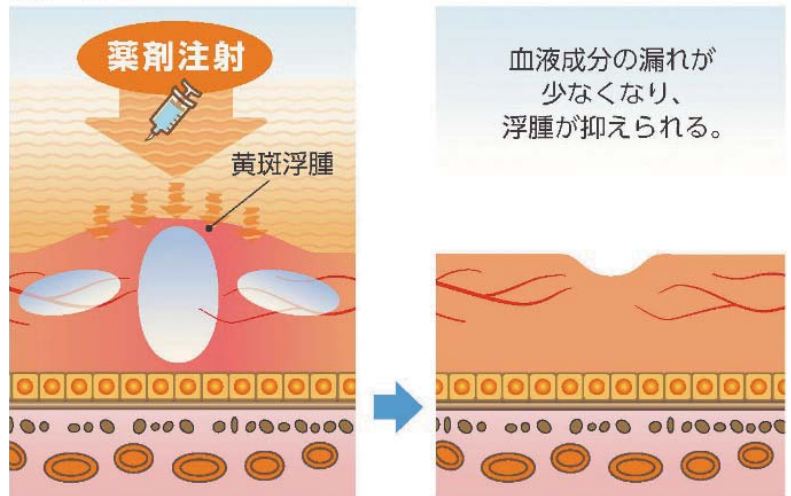
①糖尿病

網膜の血管が脆くなって血液の水分が漏れ出して、黄斑浮腫が起こります。

糖尿病の合併症として有名な糖尿病網膜症は、視力が良くて気が付かない間に進行していることが多いです。

しかし黄斑浮腫は、極端に視力が下がるので、早く気が付くことが多いです。

【イメージ図】



①、②正常血管からの水漏れによる黄斑浮腫

②網膜静脈閉塞症

高血圧などで動脈硬化が進行し、網膜の静脈がつまることで、眼底出血や黄斑浮腫が起こります。

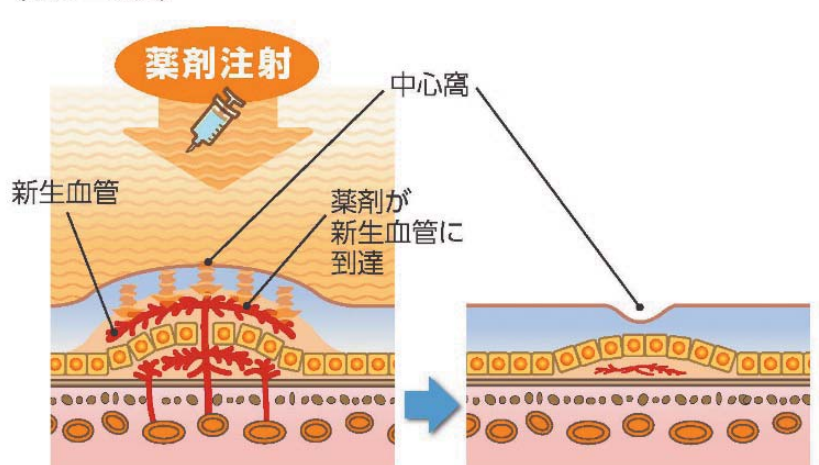
血管がつまった後、かなり時間が経ってから黄斑浮腫が起こることもあります。

③加齢黄斑変性、強度近視による脈絡膜新生血管

加齢や強い近視の影響で、網膜より深いところにある脈絡膜から、網膜に向けて異常な血管（新生血管）が生えてきます。

新生血管は脆いので血液の水分が漏れ出して、黄斑浮腫が起こります。

〈イメージ図〉



③異常な血管(新生血管)による黄斑浮腫

最後に皆さんへのメッセージです。

左右2つの目があるおかげで、多くの情報を得ることができます。

しかし、目が2つあるがゆえに、片目が見えにくくても自覚症状が出にくく、気が付かない間に病気が進行してしまうことがあります。

糖尿病の患者さん、高血圧や強度近視の患者さん、60歳以上の方はかかりつけの眼科を決めて、定期的に検査を受けましょう。

今日お話しした病気以外にも、年齢と共にさまざまな病気の危険が高くなります。

どれくらいの間隔で検査を受けるべきかは、かかりつけの先生と相談してください。

なお、当院の眼科は、近隣の眼科医院と連携を取って専門的な治療を行っているため、かかりつけの先生からの紹介状が必要です（完全予約制）。

毎年、年4回行っていましたがイベント食ですが、2020年度よりコロナ禍となり集合形式でのイベントを開催するのが難しくなりました。そこで、患者さんに少しでも楽しんで頂けるようにと年に1回ではありますが3月にお弁当の提供を行うことにしました。毎年、大変患者さんに好評を頂いております。

- ・ご飯
- ・チキンのハーブ焼
- ・ゆず風味お浸し
- ・魚の西京焼き
- ・えびチリソース
- ・デザート
- ・煮物の盛り合わせ
- ・ごま豆腐
- ・清汁



新任医師のご紹介

当院で勤務することになりました
医師をご紹介します。
どうぞよろしくお願いいたします。



皮膚科

さの きりこ
左野 桐子

出前講座「転倒予防教室」のご紹介

当院では、職員が専門性を活かした出前講座を実施しています。今回は、理学療法士が行う「転倒予防教室」をご紹介します。

冬の寒さや新型コロナウイルスの影響により外出や運動の機会が減少しています。「屋内の方が屋外で活動するよりも転倒リスクが少ない」と思いがちですが、意外にも**転倒事故が発生するのは住宅内が多い**のです！さらに65歳以上の方になると、階段や玄関の段差で転倒することも増えます。「これくらいは大丈夫」と思われるちょっとした段差でも、思いがけず足をひっかけてしまい、転倒しがちです。

そこで、理学療法士が転倒リスクのチェックを行ったり、座ったままでもできる簡単な転倒予防運動をお教えます。ご自宅内での転倒のリスクをあらかじめ把握して、予防策をすることで、長く健康な生活を送ることができます。屋内にいる時間が増えているこの時期に運動習慣を身につけて、元気にコロナ禍を乗り越えて、春を迎えましょう！

「転倒予防教室」以外にもたくさんのお出前講座を提供しています。ご関心のある方は大牟田市HPの「市役所職員出前講座」をご覧ください。当院総務課までお問い合わせください。



転倒を予防して、健康的な生活を送れるように、役立つお話をします！

過去の出前講座の様子



転倒予防運動も実技でお教えます。ちょっとした運動ですが、効果がありますよ！